



高い空一面にうろこ雲が浮かんでいました。この美しい錦秋の日々を、コロナの暗雲が再び覆いつつあります。インフルエンザも流行する季節。先の見えない不安に押しつぶされそうになることも…。

自称苦労人のリーダーは、盛んに「自助」とおっしゃるけれど、「自助」がままならない人のために知恵をしぼるところ、政治家に求められる役割ではないでしょうか。自らも感染のリスクを抱えつつ、使命感に燃え現場で踏ん張り続けて下さっている医療従事者の方々の多くが、病院の経営悪化で賃金やボーナスをカットされてしまう現実がある中で、アベノマスクやGo To キャンペーンの前締めを請け負ったところにはたくさんのお金が流れていきます。政治というのは、私達の税金の使い道が問われることなのだとということも、改めて思い知らされます。

テレビでは、アメリカ大統領選挙で連日連夜大騒ぎでしたが、同じように、自分達の国の中で起こっていることを、きちんと正しく伝えているのでしょうか？民主主義の根幹を揺るがす言動の数々は、何も海の彼方だけの話ではないと思いますが…メディアに惑わされず、よく目をこすって現実をしっかりと見つけ、考え続けていきたいものですね。

今、空前のヒットを飛ばしている劇場版「鬼滅の刃～無限列車編」は、夢を見せられている間に鬼に喰われてしまうという設定。目覚めて戦うためには、夢の中の自分自身を断ち切らなければならないのですが、それには現実を見据え立ち向かう勇気と強靱な意志の力が必要なのです。もしよかったですら観てください（キメハラじゃないですよ(^-^*）。

さて今回登場するのはこの人、いつも快活さわやか笑顔の、しばねえです。



私、川口生まれの川口育ち、今も川口に住み、姓は榎本、名は典子。
人呼んで柴姉(しばねえ)。見ておわかりのとおり、軍人・柴山の姉でございます。

川口ぞうとの出会いは、第一回目コンサートで聴く側でした。その時娘は膝の上で指をしゃぶりながら聴いていました。二回目のコンサートでは家族で舞台に立ち、その後も、地元の飯塚地区で集まった子どもや大人とチームを組んで参加していました。途中何回かは舞台には立たず、当日だけお手伝いするスタッフとして係わっていたりもしましたが、退職してからは、完全復活です。

川口ぞう30年の歴史には、涙、笑い、冷や汗等々満載。子どもたちのための出張レッスン、ぞうグッズ作り、開場の何時間も前から列を成すお客様の対応に四苦八苦、終演後の怪しい紙袋置き去り事件(地下鉄サリン事件の年です)…紙面では語りつくせないのが残念o(^-^;)

昨年から30周年記念公演に向け、希望に添った形で着々と準備が進んでいました。それがコロナ禍で延期になると誰が想像したでしょう。そして、日本という国が、いかに危うい国であるかということを目の当たりにした今、ぞうれっしゃを歌い続けなければとの思いは日に日に強くなっています。

飛沫を飛ばしながら、密になって、大きな声で、ぞうれっしゃを歌える日が来ることを信じて、♪～健康体操 健康体操～♪それまで皆さんお元気で～♪

